

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第2回 放射性廃棄物管理分科会 (F2SC) 議事録

1. 日時 平成12年 6月28日 (水) 14:00~16:30

2. 場所 (社) 日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 森山 (主査)、小川 (副主査)、藤原 (幹事)、出光、上田、馬原、荻込、坂下、佐々木、豊原、山本、油井 (12名)

(代理出席委員) 吉田 (松田委員代理) (1名)

(欠席委員) 大江、本山 (2名)

(常時参加者) 飯村、武部、西村、増田 (4名)

(事務局) 太田、市園

4. 配付資料

F2SC2-1 第1回 放射性廃棄物管理分科会議事録 (案)

F2SC2-2 標準委員会の活動状況について

F2SC2-3 分配係数の標準化の進め方について (案)

参考資料

F2SC2-参考1 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、出席者の確認の結果、15名の委員中12名の委員と1名の代理委員の出席があり、決議に必要な委員数(8名以上)を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録の確認

事務局より前回議事録の確認を行い承認された。(F2SC2-1)

(3) 活動状況報告

事務局より原子燃料サイクル部会等の活動状況の報告があり議論が行われた。主な意見を以下に示す。(F2SC2-2)

- ・ 行政省庁等の規制側と学会標準の関係としては、学会は中立機関として指針等の解説に相当する標準を作成するなど、規制の参照、参考基準としての位置づけを目指すこととなる。

(4) 新委員の選任、退任委員の報告

藤原幹事より常時参加者の武部氏及び吉田委員代理を分科会委員に選任することが提案された。森山主査より委員選任に対する決議が行われ、全員一致で可決された。なお、事務局より松田委員が今回(第2回分科会)をもって退任する旨連絡を受けているとの報告があった。

(5) 標準化のイメージについて

森山主査より、作成する標準は社会的/学術的必要性に対し研究活動を通じてあるモデルやデータベースとして応えることではないかとの問いかけに対し議論が行われた。主な意見を以下に示す。

- ・ 学会は学識経験者の集団であり、標準委員会は産業界との調整の場とも捉えることができる。スタンスを早めに決め、手戻りのない様に進めていきたい。
- ・ 学会のバックエンド部会にて特定のテーマでセッションを開き、本分科会へフィードバックをかけてもらう方法もある。
- ・ 社会的/学術的要求は全てを抽出し、標準化が可能な範囲を絞り込んでいきたい。
- ・ 社会的必要性が第一ではあるが、客観性が重要であり、学術的必要性をバックグラウンドとして検討を進めたい。
- ・ JIS(日本工業規格)のようにある部分についてまとめ、後から追加が可能である体系とすることが好ましい。
- ・ 分配係数の測定方法は、JISの体系をモデルとする。事業者がその測定方法を使用する場合、廃棄物の処分方法によって測定方法が異なってくるため画一的な標準化は難しいのではないかと。研究的要素が強く、本分科会で対応できない範囲もある。
- ・ 安全審査の拠り所とするのであれば、標準化した内容についての適用性を明確に定める必要がある。

以上議論を踏まえ、分配係数の標準化の進め方について審議することとなった。

(6) 分配係数の標準化の進め方について

藤原幹事(本文、参考3)、武部氏(本文)、豊原委員(参考1)、吉田委員代理(参考2)及び上田委員(参

考4)より説明を行い議論が行われた。主な意見を以下に示す。(F2SC2-3)

- ・ H L W (高レベル放射性廃棄物)まで標準の検討範囲に含めるのであれば、分配係数の測定方法としてバッチ法だけでは不十分ではないか。ある程度廃棄物の処分環境にあった測定方法を用いることが好ましく、対象とする廃棄物と測定方法の適用範囲を明確にする必要がある。
- ・ H L Wへ分配係数が適用できるかどうか明確にする必要がある。
- ・ 分配係数標準化の適用範囲は、今後作業を行うための前提条件であり明確にしたい。

a. 分配係数の測定条件について (F2SC2-3参考-1)

- ・ 公開性の観点から測定データの確認は重要である。更に、なぜこのように判断したか分かるように、細かいところまで根拠を残さなければならない。
- ・ 本分科会での審議に加えバックエンド部会で意見を求めることも考えている。
- ・ 最終的には欧文を正にすることなど、広く意見を聞くことを意識して進めたい。

b. 対象核種のグループ化について (F2SC2-3参考-2)

- ・ 対象核種の検討については、社会的必要性が求められ、実験的に簡便に扱う核種、被ばく上重要な核種といったグループ化が必要である。
- ・ 核種の挙動メカニズムに関係するため、どの程度合意が得られるかが重要であり、外部に対し問いかけを行い、客観性を確保することが必要である。

c. 分配係数へ影響を与える因子について (F2SC2-3参考-3)

- ・ 影響を与える因子が全て検討範囲に入っていることは重要であるが、簡便化が図れるかどうか疑問である。
- ・ 簡便化を図ることは、分配係数への影響因子に対する知見の整理で網羅できるのではないか。
- ・ 因子の組み合わせによる効果もあり、一つの因子に着目するだけでは、簡便化は行えない。
- ・ 一般的な測定方法で網羅できない範囲について検討考慮することとしたい。

d. 分配係数測定値のばらつきについて (F2SC2-3参考-4)

- ・ 誤差評価は、重要であり正當に評価すべきである。
- ・ トレーサビリティの観点から、客観性のある参考文献を確保したい。

以上の議論を踏まえ、森山主査より次回分科会にて今回の検討範囲で足りない範囲を分担するため、幹事を中心として分担案、スケジュールを具体的な参考文献とともに作成し、審議を行うこと及びバックエンド部会に検討依頼が必要な範囲を明確にすることが提案され、全員一致で承認された。

(7) 今後の予定

第3回分科会を7月12日(水)、18日(火)、24日(月)～28日(金)のうち委員の都合を事務局にて確認の後、別途連絡することとした。

以上